

# 資料渉猟余話

その127

南信州地域資料センターに、箕瀨のよしわ産業さんより、沢山の資料が寄贈された。その中から、

百点を超える旧派(月並派)の俳句資料が見つかった。多くは、大正時代のものであるが、この時期の旧派俳句会について、

は、伝説を守り、呼ばれる俳句師たち、由緒正しいのは我々、わかっている。正風、呼んでいた。貴重的な研究資料になるだろう。今後の研究の可能性や、大正

期に俳句を楽しんでいた人々の姿などを紹介したい。

資料紹介の前に、「旧派俳句会」とい

ていた。しかし、こ

う言葉について触れたい。「旧派」

という言葉は、正岡子規ら、新派側が攻撃のために付けた名

称である。当然、旧派側では、自分たちが「古い派」と思

っている。宗匠と

呼ばれる俳句師たち、

は、伝説を守り、

では現在、通常に使

われている「旧派」

「俳句」という言葉を

使わせていただく。

今回、まず行った

ことは、数々の資料

が混在していたの

で、できるだけ俳句

会毎に分類をした。

すると十を越える俳

句会資料を見るとき

は、宗匠格の人で

あり、宗匠格の人で

あることがわかつ

た。俳句も10句掲載

された。文中に「復活

」とあったが、前の活

動についての記述は

見つけられなかつ

た。また、連合会に

ついては同書に記述

は無く、直接、玉齊

俳句資料にあたり、

宗匠名や句会参加者

になったときの作品

を一句紹介すると、

「大楠の香や梅雨晴

れの神の庭」高得点

を得た句であるが、

「大楠」と「神の庭

では、素直すぎる

の旧派俳句会は、簡

単に触れられている

。旧派が大事にし

ていた語句・題材な

ら、大正期

では、素直すぎる

## 大正期 旧派俳句会の楽しみ

竹村 雄次



寄贈された玉齊俳句資料

その俳句が扱った。多くにこの玉齊名が

あつた。同資料の

中で多かつた俳句

元々の所有者はこの

玉齊であると推察が

でき、この資料を

「玉齊俳句資料」と

呼ぶことにした。

大正期の下伊那俳

句界の状況について

知るには、昭和2年

刊の小林郊人編『伊

那の俳人』が扱った。あり、宗匠格の人

となる。同書で玉齊

玉齊等、とあり、こ

こには玉齊の名があ

つた。文中に「復活

」とあったが、前の活

動についての記述は

見つけられなかつ

た。また、連合会に

ついては同書に記述

は無く、直接、玉齊

俳句資料にあたり、

宗匠名や句会参加者

になったときの作品

を一句紹介すると、

「大楠の香や梅雨晴

れ

の神の庭」高得点

を得た句であるが、

「大楠」と「神の庭

では、素直すぎる

の旧派俳句会は、簡

単に触れられている

。旧派が大事にし

ていた語句・題材な

ら、大正期

では、素直すぎる

の旧派俳句会は、簡

単に触れられている

。旧派が大事にし